

わたしたちの 絵画

長岡造形大学
美術・工芸学科
絵画コース
優秀作品展

森田 千尋 Chihiro MORITA
『汚れた雑巾』 油彩・キャンバス F50号

私は、感情を持たないものが感情を持っているかのように表現することができる人間の感性や、優しさがとても好きです。そして、そこに自分の感情を投影することができることも、とても素敵なことだと思います。

また、私は爽やかな中のネガティブなものの異物感や、理由もわからずもの悲しい気持ちになってしまうことを表した絵画作品や小説が好きで、そういったものを表現していきたいと考えています。

そこで今回私は、人の心を雑巾に置き換えて表しました。人の心は、汚れたり洗ったりを繰り返しています。しかしここに描かれた雑巾は、ずっと洗われずにいたものです。その理由は人それぞれですが、洗われずにいる心を持つ人に、何かを感じていただけたらと思います。

また、一度油彩での細密描写に挑戦してみようと思い、この作品を制作しました。とてもいい勉強になりました。

大橋 麻耶 Maya OHASHI
『スカートに雪を集める』 銅版画 エッチング・アクアチント w:180×h:235
アクリル・キャンバス F6号

降ってくる雪を集めようと、女の子がスカートを広げているところを描いた作品です。日に日に気温が下がり、空気が冷たくなっていくなかで、もうすぐ訪れる冬を想像しながら描きました。冬の透き通った空気やしんとした静けさを感じられる作品を目指しました。

永井 愛 Ai NAGAI
『牧 神』 銅版画 エッチング・アクアチント w:240×h:140

私は幼い頃から幻想的なものに強い興味、関心を抱いていた。そのためか私はよく空想にふける。その空想の中では、植物などの自然物は各々が感情や意思を持って生きている。

牧神は森の守護者。

森を守るということは、森に生きるもの全てを愛でることである。

また、この牧神は森の生命力や感情、思いが具現化した姿である。

つまり森そのものなのだ。

『夜行』 銅版画 エッチング・アクアチント w:150×h:178

日中、私は多くの人と話をする。そしてその時話したことを、深夜布団に潜りふりかえる。

すると、日中には分からなかった話の本質、言葉の意味を理解する。

それらは全てが良いものではなく、時に自分にとって不快で気持ちの悪いものもでてくる。

その不快感に嫌気がさすと、考えることをやめ、目を閉じ、遠くで聞こえる車の音や除湿器の音、時計の秒針といった夜の音を聞き、眠りにつく。

<フクロウ>

夜目がきき、暗闇でもはっきりともものを見ることができる。

しかし、日中は光が眩しすぎるため、目を細めている。

また、耳の構造が特殊なため、聴覚も高い。

岡谷 敦魚 Atsuwo OKANOYA
『three point』 銅版画・リトグラフ・シルクスクリーン w:194×h:194×d:50

画面に3つの点をおく。存在と非存在との関係性をとりもつ第3の視点として。

長谷川 恭子 Kyouko HASEGAWA
『海に立つ』 油彩・キャンバス F50号

現在、私は「孤独」というテーマで制作と研究を行っており、その一環として描き始めました。当初は「海に溶け込ませる」という目的で、人物を海と同系色にするよう画面作りをしていました。人物の色を引いて存在感をなくし、海や空の存在感を際立たせることで、周囲の空間の肥大化と自身の萎縮を表現して、孤独を表そうとしたからです。ですが、予想以上に画面に溶け込んで見えなくなってしまったので、肌だけ着色して引き立たせることにしました。それとともに全体の調子を整えていった結果、周りに溶ける儂い人物ではなく、海辺にしゃんと立つひとりの人物となりました。結果として、「孤独」というテーマから見ると、ひとりの人物の持つ、内面の芯の強さや、超然とした姿勢を表した作品となっております。

庭野 真梨子 Mariko NIWANO
『growly days』 油彩・キャンバス F30号

現実の世界でつらい事や苦しい事が次々と起こり、悲しくなります。しかしそんな現実とは裏腹に、私の心の中にはたくさんの色が溢れ、穏やかな気持ちになります。私はこの作品に、自分の明るく前向きな部分をずっと枯らさずに生きていきたいという単純な願いを込めて制作しました。

佐藤 友香 Yuka SATO
『information』 ミクストメディア w:906×h:450×d:23

私は情報が好きで、いつも情報について考えています。この作品は、自分の頭の中で情報がどのように処理されているかを表現したものです。情報にはいろいろな種類があり、形も大きさもバラバラだと思います。目に見えないものもあります。処理のされ方も様々だと思います。この作品は情報処理の過程の一部を表したものです。

相川 恵子 Keiko AIKAWA
『Women I』 コラージュ w:728×h:1,030
『Women II』 コラージュ w:728×h:1,030

私は未完成な人間に興味があります。完璧ではなく未完成だからこそ人を愛せると私は思います。

岩橋 竜治 Ryouji IWAHASHI
『成長し続ける空間』 油彩・キャンバス w:1,510×h:1,460

私は人間が成長するのと同じように、生活の中での空間に点在する物や壁または床も成長していると考えている。人間は年を重ねる毎に成長し、やがては一生を終える、生活していく上での物も、何十年も使い古せば、やがては壊れて物としての用途を終える。

なので、私は人間が成長して生活していく過程を、生活していく上での物でも同様に、生命感を与え感じ取れる生活空間を表現している。

生活空間に生命感を与える情報として、植物が上へ伸びている過程を描き“空間が生きていること”ということを表している。画面の中の植物について、生活空間の中の植物がある日常を私は幼い頃から慣れ親しんでいたことにある。何気ない生活の中に植物は当たり前のようにあり、わたしが成長していくと同じ様に生長していく。そういった幼い頃からの生命に身近で感じていたことが画面へと出ている。

小林 真弓 Mayumi KOBAYASHI
『会いたいね』 油彩・キャンバス F50号

誰かが死んだ後、葬式中や日常生活の中で、ぼんやりとしている人がいる。そのぼんやりとした時間に、人は死んだ人に会いに行っているのだと思う。

『そこにいる』 油彩・キャンバス F50号

自分の中に見知らぬ生き物が存在している気持ち悪さ。「妊娠」とは、おかしいものだと思う。自分の肉体の一部が、自分とは違う意思を持つ。やがてひとつの個体として、自分とは違う肉体を持ち、離れていく。そのことに気持ち悪さを感じた。

星 奈緒 Nao HOSHI
『no name IV』 パステル・紙 w:1,030×1,456

私は、昔からずっと人ばかり描いてきました。私にとって、絵を描くことは人を描くことです。普段、人を見たり、人と会話したり、触れ合ったりする中で、私の頭の中は様々な感情や情報でいっぱいになります。でも、人を描いているときは、それらが薄まって行って、頭の中はとてもシンプルになります。ただ、人のうつくしさにだけ集中します。それは、他にはない感覚です。それを感じるために、私は絵を描きます。

小杉 美紀子 Mikiko KOSUGI
『帰り道』 油彩・キャンバス F50号

私の地元の風景を描きました。実際にこの風景に立ってまず単純にきれいだなと思い、きれいだと感じたこの風景を描いてみようと思い制作を始めました。その風景を見た時に感じた“きれい”という気持ちを掘り下げて、何故きれいだと感じたのか、その場所にいた時のことを思い出してみても出てきたのが、懐かしさや寂しさと言った気持ちでした。懐かしさと言っても何か思い出などがあるわけでもないのに、その時の匂いや空の色などから感じる懐かしさのような寂しい気持ちです。そのような感情がその風景をより魅力的に感じさせたのではないかと思いました。この絵ではそんな懐かしさ、寂しさから感じる“きれい”というものを表現しようと思い制作しました。

齋藤 しほ Shiho SAITO
『merry-go-round』 油彩・キャンバス F50号

優しいものと暗いものを混合し、不思議な世界を生み出してみたいと思い制作してみました。柔らかいふわっとした優しいものと、冷たく暗い影のある怪しいものは対照的であり、近いものでもあると感じ、それを一つの画面で表現しました。闇の暗さはぼやっと柔らかくて優しい色であり、冷たく重い空気も感じます。そのような遠いようで近い雰囲気を感じとってもらいたいです。